

作成番号:0162

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

号数:2024-162

\*\*\*\*\*

内容:著者による生成 AI の使用に関して雑誌によるガイドラインは？

出典:Publishers' and journals' instructions to authors on use of generative artificial intelligence in academic and scientific publishing: bibliometric analysis.

BMJ (Clinical research ed.). 2024 Jan 31;384:e077192. doi: 10.1136/bmj-2023-077192.

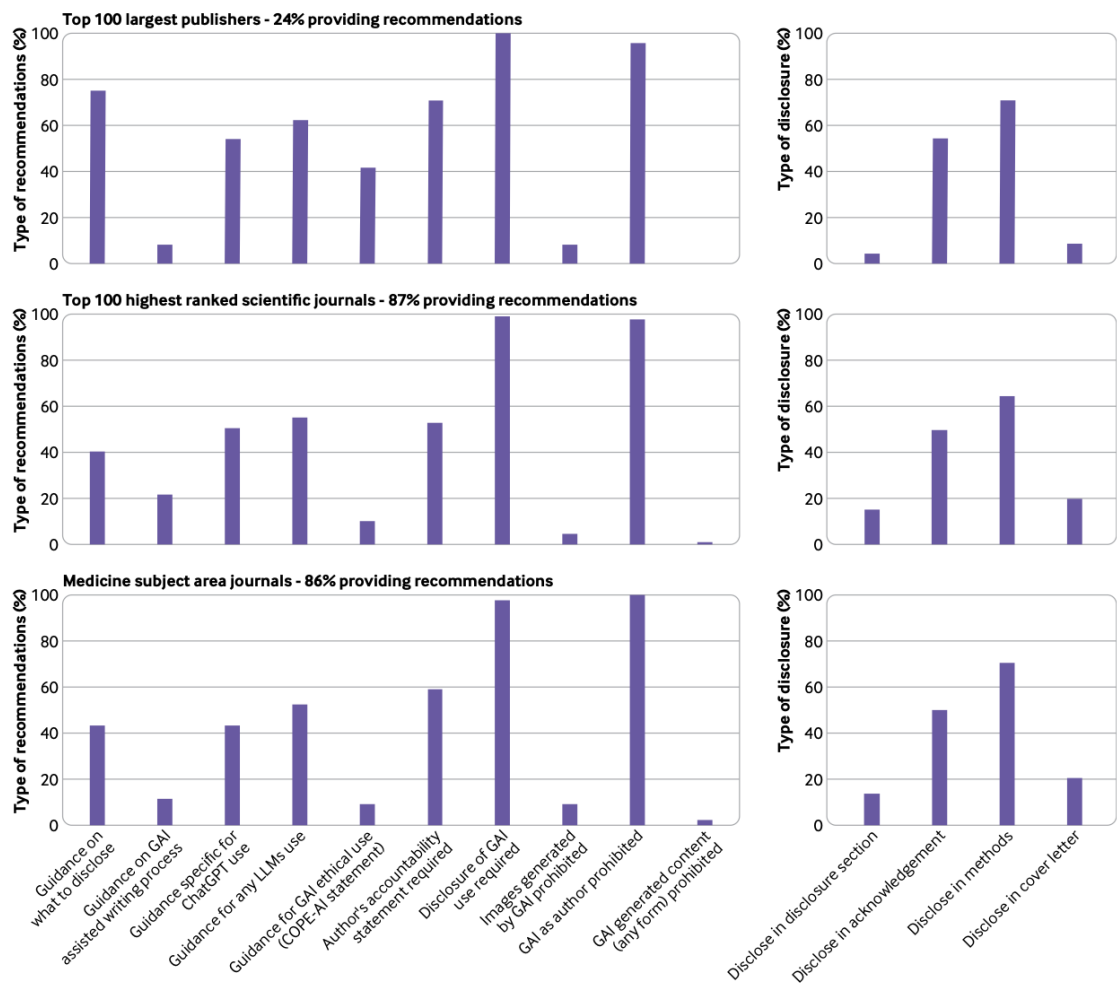
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38296328/>

\*\*\*\*\*

論文作成に生成人工知能 (generative artificial intelligence:生成 AI) の使用に関して、出版社や雑誌によるガイドラインがどうなっているのか、米国・南カルフォルニア大学の研究者らが、横断的な計量書誌学的研究を行った。その結果を BMJ 誌 2024 年 1 月 31 日号に報告した。

最大手の出版社上位 100 社と高ランクの科学雑誌上位 100 誌を対象として、生成 AI ツールに関する著者ガイダンスを調査した。主要アウトカムは、上位 100 の学術出版社および科学雑誌の公式ウェブサイトに掲載されている生成 AI ガイドラインの内容、および出版社とその提携雑誌間のガイダンスの一貫性とした。学術出版社のうち、生成 AI の使用に関するガイダンスを提示していたのは 24% で、そのうちの 15 社 (63%) は上位 25 社に含まれていた。また、科学雑誌のうち、生成 AI に関するガイダンスを提示していたのは 87% であった。ガイドラインを設けている出版社と雑誌のうち、著者として生成 AI を含めることを禁止しているのは、それぞれ 96%、98% であった。原稿作成における生成 AI の使用を明確に禁止している雑誌は 1 誌 (1%) のみで、出版社 2 社 (8%) と雑誌 19 誌 (22%) は執筆過程にのみガイドラインが適用されるとしていた。生成 AI の使用を開示する場合、出版社の 75%、雑誌の 43% が特定の開示基準を定めていたが、生成 AI の使用を開示する場所は、方法あるいは謝辞、カバーレター、新しいセクションなど、さまざまであった。

標準化の欠如は、著者への負担につながり、規制の効果を限定的なものとする可能性がある。生成 AI の人気が拡大し続ける中、研究成果の科学的誠実性を確保し続けるためにも標準化されたガイドラインが必要となる。



**Fig 1 | Types of recommendations and types of disclosures for generative AI recommended in author guidelines for top 100 largest academic publishers and top 100 highly ranked scientific journals. A subanalysis was performed of journals listed in the medicine and multidisciplinary subject area of Scimago. AI=artificial intelligence; COPE=Committee on Publication Ethics; GAI=generative artificial intelligence; GPT=generative pretrained transformer; LLMs=large language models**